

ヘーゲル購入の
『スラーフェン・ハーグ王立展示館絵画目録』(1822 年)について
**Über die von Hegel gekaufte Notitie der Schilderijen
van het Koninklijk Kabinet te 's Gravenhage (1822)**

神山 伸弘
Nobuhiro Kamiyama

1 ヘーゲルとスラーフェン・ハーグ王立展示館について

ヘーゲルは、1822 年 9 月から 10 月にかけて行ったネーデルラント芸術視察旅行において、10 月 9 日(水)夜 8 時にデン・ハーグに着き、翌 10 日(木)午前中に美術館を鑑賞した旨、妻宛に書簡で報告している(本書「ヘーゲル絵画論関連テキスト」書簡 438 参照)。その美術館は、現在のマウリッツハイス美術館である。当時は、「スラーフェン・ハーグ王立展示館」(Het Koninklijk Kabinet te 's Gravenhage)と称していた。開館日は、1816 年 1 月以降、一般には——子ども連れでないドレスアップしたひとにかぎり——週二日の水曜日と土曜日で、入場時間帯は 10 時から 13 時までであった(M., 15)。ヘーゲルは、木曜日に鑑賞したわけだから、来訪時には開館日が異なっていたか、さもなければ特別扱いしてもらったことになる(でなければ空出張報告だろう)。ヘーゲルには、コネがあった。美術館に「ヴェルテンベルクの視学官がいる」と、その実を示している(前掲書簡参照)。

その鑑賞のさい、ヘーゲルは当館のカatalogを買って求めた。『スラーフェン・ハーグ王立展示館絵画目録(国王陛下御用達A・H・バクハイゼン書店刊¹・1822 年)』(Notitie der Schilderijen van het Koninklijk Kabinet te 's Gravenhage, Bij A. H. Bakhuyzen, Boekverkooper van Z. M., 's Gravenhage 1822.)である。これは、ヘーゲルの『蔵書競売目録』(本報告書付録 DVD の 203_ヘーゲル蔵書売り立て目録抜粋.pdf 参照)の 1598 番となるもので、ヘーゲルが「スラーフェン・ハーグ王立展示館」で観た絵を確認するさいの根本資料となる。その目録を作成した総責任者は、館長のヨーンクヘール・ヨハン・ステーンブラハト・ファン・オーストカペル(Jonkheer Johan Steengracht van Oostcapell, 1782-1846, 在任 1816-1841)である(M., 13)。その当時のネーデルラントでは、ナポレオンの没落に伴い、1795 年来フランスに略奪されルーブルに移されていた美術品が返還されるなど、その整理に慌ただしい事態となっていた。1815 年には、125 点の返還があり、フランスに残っているもの 68 点、不明のもの 27 点とされる。また、1821 年 8 月以降にも返還がなされたとされる(M., 13)。これは、なお残留していたものだろうが、いずれにせよ、ヘーゲルが鑑賞した 1822 年 9 月・10 月までには、展示品にかなりの流動があったものと思われる。したがって、1822 年刊のカatalogに漏れたものも、実際にヘーゲルが鑑賞しえた可能性は捨てきれない。とりわけ、1822 年に返還されたとするものがその対象となる²。

本研究では、このへんの遺漏も補足すべく、現マウリッツハイス美術館の所蔵番号中若いものを悉皆調査し、1822 年返還のもので先のカatalogに記載のないものもいくつか発見している。その悉皆調査の結果は、DVD で、「Mauritshuis Inventory No. 1-380, et al. (2018)」のファイルとして示すが、1822 年返還のものは、[Origin]項目で強調表示しておいた。なお、所蔵番号ではいかにようにしても検索できない「欠番」のごときものがある。この「欠番」の意味するところはなにか、という掘り下げまでには、本研究は至っていない(「悉皆」にもやむをえざる「穴」がある)、ということである。了とされれば幸いである。

それはそうと、先の妻宛書簡によれば、ヘーゲルは、10 月 10 日午前中に美術館を訪れたと記録されているが、書簡 439 ではハーグ出発が 10 月 12 日(土)午前 7 時とされているから(前記資料省略部分)、11 日(金)に再鑑

賞した可能性もなきにしもあらずである。もともと、当館の鑑賞には、ゆっくり観ても半日あれば十分のところがあるから、その報告が残ってないことからすると、再鑑賞はなかったと考えてよいかもかもしれない。

2 当館『絵画目録』について

前掲の 1822 年刊『絵画目録』は、初編集によるものではない。2016 年 2 月に本研究目的にしたがってマウリッツハイス美術館附属図書室を閲覧したさいに確認できたものは、次のとおりである(ただし、Les Principaux Tableaux du Musée Royal à la Haye は、第 3 部途中まで実見記録あり。ほかは Google 情報で補足)。

*Catalogue, d'une partie du superbe Cabinet de Tableaux de son Altesse Sérénissime Monseigneur Le Prince d'Orange et de Nassau, Stadhouder héréditaire, Capitaine Général et Amiral des Provinces Unies des Pays Bas, &c. &c. &c. à La Haye, publié par Pierre Terwesten, à La Haye, chez Jean Gaillard, Libraire dans le Veenestraat 1770.*³ — フランス語およびオランダ語対照(オランダ語タイトル省略)。全 63 頁、101 作品。(ネーデルラント国立図書館(1294/B/62)提供のものが Google で取得可能。)

Koninkrijk Kabinet van Schilderijen in 's Gravenhage, *Lijst van het Koninklijk Kabinet van Schilderijen in 's Gravenhage, 1817.*⁴ — オランダ語。全 16 頁、133 作品。作品数に照らし、ほぼフランスからの返還物。

*De la Galerie a la Haye, Notice des Tableaux de la Galerie Royale à La Haye, 1817.*⁵ — 前掲のフランス語版。
*Notitie der Schilderyen van het Koninklyk Kabinet te 's Gravenhage, 's Gravenhage, Bij A. H. Bakhuyzen, Boekverkooper van Z. M., 1822.*⁶ — オランダ語。全 39 頁、305 作品、大理石像 9 作品。(ネーデルラント国立図書館(1295/G/27)とヘント大学提供のものが Google で取得可能。)

*Notitie der Schilderyen van het Koninklyk Kabinet te 's Gravenhage, 's Gravenhage, Bij A. H. Bakhuyzen, Boekverkooper van Z. M., 1823.*⁷ — オランダ語。全 41 頁、318 作品、補遺 10 作品。

*Notice du Musée Royal de Tableaux à la Haye, La Haye, Chez A. H. Bakhuyzen, Libraire de S. M., 1823.*⁸ — 前掲のフランス語版。

*Les Principaux Tableaux du Musée Royal à la Haye, Gravés au Trait, avec leur Description, ed. par J. Steengracht van Oostkapelle, À La Haye, de l'Impmerie du Gouvernement, [1. Partie,] 1826; 2. partie, 1828; 3. Partie, 1829; 4. Partie, 1830.*⁹ — フランス語。第 1 部:全 48 頁、作品 No. 1-25。第 2 部:全 39 頁、作品 No. 26-50。第 3 部:全 42 頁、作品 No. 51-75。第 4 部:全 33 頁、作品 No. 76-100。(ネーデルラント国立図書館とヘント大学提供のものが Google で取得可能。)

なお、*Notitie der Schilderyen van het Koninklyk Kabinet te 's Gravenhage* のタイトルでは、1827 年頃版¹⁰、1837 年以降版¹¹、1830 年以降 1838 年以前版¹²が、ネーデルラント国立図書館提供のもので Google から取得可能である(ここで「頃」「以降」「以前」というのは、目録に発行年が記されておらず、図書館の推定によるからである)。

『目録』の発行年次——とりわけ 1817 年、1822 年、1823 年——をみると、その編集目的がフランスによる略奪品の返還を機にしていることが容易に分かる。とりわけ、1822 年の返還では、翌年にも改訂版を出さねばならぬ慌ただしい状況にあったことを注意しておく必要がある。ヘーゲルの訪問は、このただなかで行われた。

3 1822 年刊『絵画目録』について

1822 年刊の『絵画目録』は、大きく、「ネーデルラント画派」(199 点)——うち「帰属不明」(14 点)・「現代画家」(31 点)——と「イタリア画派」(98 点)、「大理石胸像」(9 点)とに区分する。『目録』は、それぞれの画派区分で画

家名のアルファベット順にしたがって配列され、それぞれの画家では画題のみを示す。画家の生没年と場所を示すとか、絵画それぞれの描かれようの記述や物理的の形状を示すことはなされていない。

前身の1817年の『リスト』が一切の画派区分をしていない——たんに「大ギャラリー (Groote Gallerij)」と括弧——ことからすると、1822年刊でそうするようになっただけでも、美術館活動は前進した。もっとも、「イタリア画派」を設けたのは、ある大きなコレクションの購入に起因していた。すなわち、1822年刊『絵画目録』の「イタリア画派」冒頭の「覚書」は、「イタリア画派の名でまとめられた以下の絵画のほとんどは、レイナー勲爵士 (Ridder de Rainer)¹³のコレクションになるもの」(p. 26)だと伝えている。このコレクションは、1821年に購入された(M., 14)。1822年刊では、レイナー・コレクション以外のものにアスタリスク(*)が付されているから、その8点を除いたイタリア画派とされる作品80点がレイナー・コレクションのものだということになる。

ところで、「ネーデルラント画派」といい「イタリア画派」といい、いずれも純粋に分類されたかという、そうではない。「ネーデルラント画派」の場合、「覚書」に、「フランス画派」と「ドイツ画派」のものが含まれているとされ、分類するには少数だからそうしたとする(cf. p. 2)。また、「イタリア画派」についても、「すべてがイタリア画派に属するわけではない」(cf. p. 26)という。レイナー・コレクションだから、混ぜこぜのままにしておいたのである。

実際、1827年刊の『絵画目録』では、「ネーデルラント画派」、「高地ドイツ画派」、「フランス画派」、「スペイン画派」、「イタリア画派」に区分されるという前進があり、たとえば、1822年には「ネーデルラント画派」に含まれていた“A. Durer”, “Holbein”が「高地ドイツ画派」に移され、同じく“Vernet”が——“Poussin”は「イタリア画派」から——「フランス画派」に移されるなどしている。また、「イタリア画派」に含まれていた“Murillo”, “Velasquez”が「スペイン画派」に移されることになった。ちなみに、1827年刊のものは、画家の——すべてに對してではないが——生没年と場所を付すという内容上の進展もみられるようになった。

それはそうと、我々の研究目的としては、1822年刊のものの絵の実際を示すことにあるわけだが、じつは、ここには大きな障害が立ちはだかっていた。レイナー・コレクションの多くが、出来の悪いものと評価され、1827年に、館長ステーンプラハトの反対にもかかわらず、売りに出されることになり、30点しか残らなくなったとされる。また、1828年には、残りも処分されてしまったという(M., 14)。

DVDには、1822年『絵画目録』をテキスト化して、現マウリッツハイス美術館のサイトで確認できる画像を貼り付けたファイルを収録したが、「イタリア画派」のところで未解明のものがほとんどであるのは、このような事情による。売却先を調べあげて現在の所蔵状況を追跡するには、マウリッツハイス美術館の記録を——その有無も含めて——探索し、世界全体に網を広げていかなければならず、現状では我々の手に余るものである。

4 「1822年『絵画目録』と現マウリッツハイス美術館所蔵番号対照表」とDVD収録物について

この解題に引き続き、「1822年『絵画目録』と現在マウリッツハイス所蔵番号対照表」を掲げる。これは、1822年『絵画目録』に付された番号([1822]欄)の絵(ないし大理石像)に対し、現マウリッツハイス美術館の所蔵番号([Inv.]欄)のどれが該当するかの一覧である。あわせて、画家([Artist]欄)と画題([Title]欄)とを記しておいた。なお、[1822]欄には欠番があるが、それは、現在の所蔵を探索しえなかったものである。また、[1822]欄の番号に“?”が付されているものは、該当させることが不確実であるもの、“*”は、現状で他館に所在しているものを示す。“MB”が冒頭に記されているものは、大理石像の意味である。

DVDには、次のものを収録した。

1. ヘーゲル購入の『スラーフェン・ハーグ王立展示館絵画目録』(1822年)について(本稿)
ファイル名: (306b01_1822マウリッツハイス・カタログ解題_v201.pdf)

2. *Notitie der Schilderijen van het Koninklijk Kabinet te 's Gravenhage*, Bij A. H. Bakhuyzen, Boekverkooper van Z. M., 's Gravenhage 1822. (マウリッツハイス美術館提供版)
ファイル名: (306b05_Haag1822MH_org.pdf)
3. *Notitie der Schilderijen van het Koninklijk Kabinet te 's Gravenhage*, Bij A. H. Bakhuyzen, Boekverkooper van Z. M., 's Gravenhage 1822. 画像貼付編集版。——画像およびキャプション等は、マウリッツハイス美術館のサイトの情報による。なお、註記上の略記号は、当該ファイルに記してある。
ファイル名: (306b03_catalog 1822 K Aufl2 Ed1 MH V6.pdf)
4. *Mauritshuis Inventory No. 1-380, et al.* (2018) ——マウリッツハイス美術館の所蔵番号 1~380 番(そのほか関連作品)を調べあげたもの。所蔵番号順に並べている。その凡例は、当該ファイルに記してある。
ファイル名: (306b04_2018MauritshuisInvNo1-380.pdf)

参考文献

(ここでは、複数引用・参照するものにかぎり、冒頭に略号を掲げ、書誌データを挙げる。)

M.: *Mauritshuis, The royal Cabinet of Paintings, Illustrated general Catalogue*, Government Publishing Office, The Hague 1977.

-
- ¹ バクハイゼン書店を営む Alexander Hieronymus Bakhuijsen (1792-1875) は、書店主 Gerrit Bakhuijsen (1758-1843) の長男で、弟に画家 Hendrikus van de Sande Bakhuijsen (1795-1860) がいる。 Cf. <https://nl.wikipedia.org/wiki/Bakhuijsen>
 - ² もちろん、それは、配置されず、したがって鑑賞しえない蓋然性もきわめて高い。これを狭めていくには、1822 年版が実際にいつ編集終了し発行されたのか、あるいは返還品がその当時一般的にどのように措置されたのか、という微細な研究に首を突っ込む必要がある。ただし、このことは、期間限定の研究では到底ないうところではない。
 - ³ “1770 Catalogus van een gedeelte van 't Vorstelyk Kabinet van Schilderyen van Zyne Doorl. Hoogheid. (P. Terwesten)” (M., p. 303.)
 - ⁴ “1817 Lijst van het Koninklijk Kabinet van Schilderijen”. (*ibid.*)
 - ⁵ “1817 Notice des Tableaux de la Galerie Royale”. (*ibid.*)
 - ⁶ “1822 Notitie der Schilderyen van het Koninklyk Kabinet”. (*ibid.*)
 - ⁷ “1823 Notitie der Schilderyen van het Koninklyk Kabinet”. (*ibid.*)
 - ⁸ “1823 Notice du Musée Royal de Tableaux”. (*ibid.*)
 - ⁹ “1826-'30 Les Principaux Tableaux du Musée Royal (J. Steengracht) illustrated with engravings”. (*ibid.*) 当然ながら、オランダ語版もある。なお、これは、マウリッツハイス美術館では調査未遂。 *De voornaamste schilderijen van het Koninklijk Kabinet te 's Gravenhage*, in omtrek gegraveerd, met derzelver beschrijving, ed. door J. Steengracht van Oostkapelle, 's Gravenhage, ter Algemeene Landsdrukkerij, [1. gedeelte, **1826**; 2. gedeelte, **1828**; 3. gedeelte, **1829**; 4. gedeelte, **1830**。(ヘント大学(1.-3.)と大英図書館(4.)提供のものが Google で取得可能。)
 - ¹⁰ “1827 Notitie der Schilderyen”. “1827 Notice des Tableaux”. (M., p. 303.)
 - ¹¹ “Ca. 1837-1838 Notitie der Schilderyen van het Koninklyk Kabinet”. “1837-1838 Notice des Tableaux du Musée-Royal”. (*ibid.*)
 - ¹² “Ca. 1840-1841 Notitie der Schilderyen van het Koninklyk Kabinet”? (*ibid.*)
 - ¹³ マウリッツハイス美術館の現所蔵記録では、“Victor de Rainer”である。たとえば、所蔵番号 255 番の “Paul Rubens (after)” 作の “Angelica Spied On by the Hermit, before 1637?” の [origin] には、“Victor de Rainer, Brussels, 1821; purchased by King William I for the Mauritshuis, 1821” とある。“Ridder” が称号、“Victor” がファーストネームなのだろう。Simona Carotenuto は、“Victor de Rainer” に “ambasciatore” (大使) と職名を付している。 Cf. Simona Carotenuto, *Francesco Solimena: Dall'attività giovanile agli anni della maturità (1674-1710)*, Edizioni Nuova Cultura, 2015 (Google), p. 74. シチリア大使 “De Ridder de Rainer” のことか。“SICILIEN. (BEIDE) / De Ridder de Rainer, Extraordinaris Envoyé en Minister Plenipotentiaris van Zijne Majesteit den Koning der beide Sicilien.” Cf. *Staats-Almanak, voor den Jare 1822*, in 's Gravenhage en le Amsterdam, bij de Gebroeders van Cleef (Google), p. 26.